



伊万里市男女協働参画懇話会

いまりプラザ

ワーク・ライフ・バランスの魅力

皆さんは、『ワーク・ライフ・バランス』とはどのようなものか知っていますか。知らない人でも、耳にしたことはありませんか。ワーク・ライフ・バランスとは、『仕事と生活の調和』、つまり、『一人一人が、仕事・家庭・地域などでの活動について、自らが希望するバランスで展開できる状態のこと』をいいます。

最初にこの言葉を聞いたとき、私の頭の中には？（疑問符）が浮かびましたが、自

分が置かれている状況を振り返ったときに合点がいききました。私は仕事をしながら、地域でさまざまな活動をしています。それぞれの場面で、子どもたちや地域に貢献するには、広い視野や知識、経験、人脈などが必要なことを感じます。そして、それらは仕事から一步離れた場所で身に付くことが多いと思います。

仕事は生きていく上で重要なものですが、私生活が充実することにより仕事を頑張る

ことができます。また、仕事が好きに進むからこそ私生活を楽しむことができます。このようにして、『仕事と私生活の好循環』が維持されるのです。両方が互いに刺激し合いい、よい影響を与え合うことがワーク・ライフ・バランスであり、その素晴らしさではないでしょうか。

仕事が多忙しくてワーク・ライフ・バランスなんて無理という人もいると思いますが、まずは自分ができる範囲で始めてみませんか。例えば、『週に1日は残業せずに帰宅し、家族や地域の仲間と過ごす時間をつくる』などは、おすす

立花小学校で『人権の花』贈呈式

6月16日、立花小学校で『人権の花』贈呈式がありました。『人権の花運動』は、年間を通して花の植栽や管理を通じて、児童の思いやりや協力する心を育てようと、唐津・伊万里人権啓発活動地域ネットワーク協議会が、小学校の児童を対象に毎年行っているものです。

今年も立花小学校で実施す

ることとなり、児童は、百日草やサルビアなどの花苗を受け取りました。児童の代表は、『大切に育てて、立花小学校の私たちの心にも美しい花を咲かせられたらいいなと思います』とあいさつしました。

この苗は、児童たちによって大切に植え替えや管理が行われ、花が咲く10月には観賞会が開催される予定です。



↑塚部芳和市長（右）などから花苗を受け取る児童

郷土の文化財

カブトガニ特集③

●問合先 生涯学習課文化財係

☎233186

学校による保護活動

ーカブトガニの幼生飼育ー

今年6月、国の文化審議会は、多々良海岸一帯をカブトガニの繁殖地として国の天然記念物に指定するよう、文部科学大臣に答申しました。今後は、カブトガニを日本の宝として保護していくこととなります。

この保護活動には、産卵地である多々良海岸の清掃や幼生（子ども）の飼育などの保存と、『伊万里湾カブトガニの館』での成体の常設展示や産卵の観察会などの啓発・活用があります。

なかでも、カブトガニの幼生の飼育は、毎年市内のいくつかの学校で取り組まれています。ふ化直後の幼生は外敵から捕食されやすいため、この期間に手厚く保護することで成体の増殖につながると考えられます。伊万里高校理化・生物

部の指導の下、その年に生まれた幼生を10月ごろから飼育し、翌年7月に多々良海岸の干潟に放流します。学校によっては、カブトガニを郷土学習の題材として取り上げるなど、授業でも活用しています。

これまで、伊万里のカブトガニはさまざまなかたちで保護されてきました。国の天然記念物指定の答申をきっかけに、これからは保護活動を一層充実させていくことが求められます。



↑学校の水槽で大切に守り育てられるカブトガニの幼生